

JIA NAGANO- KEN CLUB

JIA 長野県クラブ

(社)日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

Vol.78
2008
06.20



2008年度通常総会



2008年度通常総会



新入会員の紹介

JIAは魔法のランプですか？？？

2年間、JIA長野県クラブの舵取りを引き受けました。設計業界を覆う閉塞感の中で今、JIAとして取り組むべき課題は、業務環境改善を通じ建築家職能の確立に向けた社会的合意を形成するために活動することです。そのためには、JIA活動の社会認知度向上を目指すことと、会員の資質向上を目指すことを活動の両輪に据える必要があります。両者が補完しあって初めて目的達成に向けた動きが見えてきます。

具体的にはまず、地域社会に対しJIA活動を広く知つてもらうために、広報活動、出版活動、セミナー活動等を通じ会の内外への情報発信を強く押し進めていきます。

家づくり集の継続発行もその一環です。今年から出版委員会を常設委員会としました。昨年に引き続いての第5集発刊に向けて、会員アンケートによる意見集約を行っています。多数の会員参加を得てJIAらしさの滲み出る本を世の中に出していきたいと考えています。

出版委員会ではまた、JIAの地域会として行う出版活動のあるべき姿を検討します。これは出版のあり方というよりも、後述する建築家活動そのもののあり方を見据えるという機運につながってくれればとの期待を込めているものです。

情報発信のもう一つの柱が広報活動です。会報発行、俱乐部ニュース配信、ホームページ活用の3本柱を有効に生か

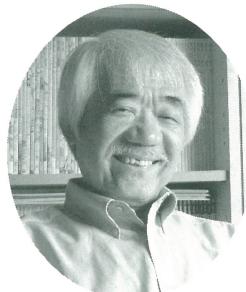
JIA長野県クラブ 会長 赤羽吉人

すために、広報委員会では会の活動状況を細部に亘って正確に把握することから始めます。広報委員会は全ての行事に顔を出して取材します。支部のブログ活用も視野に入れています。

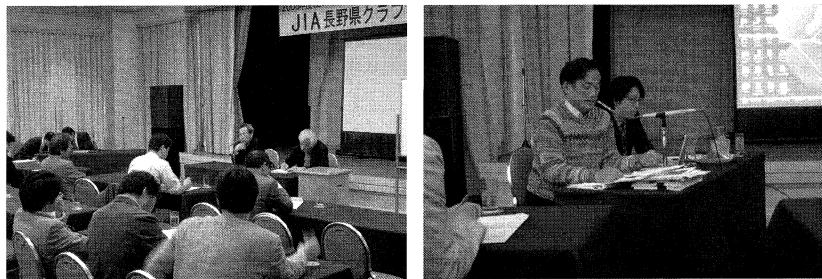
しかし最も大切なのは日常の設計活動の中での自己研鑽とJIA会員としての個々の情報発信です。建築設計を通じて良好な街並みの形成と地域社会への貢献を行うという建築家本来の業務目的を達成すべく努力していく中で初めてJIA活動も認められるのではないかと思います。

私は普段、雑学に裏打ちされた広い視野で物を見られるようになりたいと心がけています。どんな切り口の話にも自分なりの意見表明ができたら楽しいだろうと憧れます。そうなれば今より少しはましな社会貢献のできる建築を作れるのではないかとの期待があります。

本稿では、情報発信の強化と会員資質の向上に絞って私の所信を記しました。JIAの発展と会員の資質向上は、どちらが欠けても成り立ちません。JIAは夢を叶えるための機会は提供してくれるかもしれません、決して夢を叶えてくれる「魔法のランプ」ではないのですよ。



2008年5月10日（土）、「2008年度通常総会」が長野ホテル犀北館（長野市）で開催されました。赤羽会長の新体制の長野県クラブがスタートしました。総会終了後、支部から上浪さんをお招きし2011UIA東京大会について、UIAの組織や大会の意義等を話をいただきました。その後、会員集会「どうする地域会」賛助会主導でおこなわれ、活発な意見交換がなされました。



再出発／2008

新緑が眩しい季節を迎え、当長野県クラブでは5月10日に恒例の総会が開催され、無事全ての議案が承認されました。ご存知の通り、本年度は役員改正により赤羽会長の新体制によって動き始めました。また、JIA本部では初めての選挙制度の採用によって仙田前会長から出江新会長に改選された事も大きなニュースです。単に代表が関東甲信越支部から近畿支部に“箱根の山を越える”ことではなく、先代から抱える会費・財政問題、会員減衰、公益法人化による組織改編などの内的問題に加え、外的には不幸な耐震偽装に始まった改正士法、建基法による業務環境の悪化（国の責務転嫁…）、登録建築家制度の確立など山積する諸問題に対し出江さんの独特的な個性を以て今までとは違う方策に期待が寄せられたのかも知れません。今は吳越同舟で理念を共有し、混迷するJIAの舵取りを願うところです。

JIA長野県クラブ

この度、西沢会長から赤羽吉人新会長にバトンタッチされる中、引き続き副会長に選任され、執行部の一員として、新会長のもとJIA長野県クラブの新たな船出を、今まで以上に会員の皆様と共に盛り立てて参りたいと思います。

ところで、姉歯事件以来、建築設計の世界はさまざまな変革が訪れています。建築士法の改正では、構造・設備についての業務権限が強化され、また各種資格に対する講習が必要とされ、そのたびに終了考査という試験まで課されるようになりました。このように建築家の職能とその社会的地位は、種々打ち出される国の施策の中でも向上拡大の方向とはならず、今まで以上に収縮する方向に

理想の光

平成20年度の長野県クラブの体制が西沢会長から赤羽新会長に引き継がれました。クラブ発足以来20年目を迎え、常に企画・実践あるいは継続・改良を繰り返しながらメンバーも増え、常にステップアップしている感じがします。

私の母校の校歌の中に“集まり散じて人は変われど仰ぐは同じき理想の光”というフレーズがありますが、“集まり拡がり人は年を重ね仰ぐは同じき理想の光”という感があります。

「たかが建築・されど建築」と言われます。設計の使命は仕事を通して社会に貢献する事ですが、果たしてそれ程の事が出来ているのでしょうか？ともすると私達はヘンな自負を持ち建築を通して世の中をリードするんだ！というウヌボレを持ってしまうことがあります。確かに建築についてはちょっと精通しているかもしれません、

新年度を迎えての抱負

赤羽新体制で副会長を任命された山口です。元より私自身その重責を担えるだけの資質も見識も持ち合わせておりませんので、打診された時は驚きと共に多いに困惑致しましたが、執行部と会員の皆さんを繋ぐパイプ役にはなれるかと思いお受け致しました。

21世紀に入り建築業界を取り巻く環境は大きく様変わりしもはや公共事業に頼れる時代は過ぎ、構造偽装事件を受けての基準法、建築士法改正は以前にも増してJIAに逆風となったと感じています。地方の時代が言われるようになって久しいですが、国の衰退を目の当たりにすると地方の真の自立以外に再生の道は無いように思われます。

本部の執行部も新しくなり活動方針は今までと大きく変わりそ

JIA長野県クラブ 副会長 久保 隆夫

さて私こと、前西沢会長時代に引き続き本年度も副会長を重任することとなり次第3期目。代々会長が代わられる折、私が留任する度に自分の力不足を知らされます。数年前から支部の常任幹事も命じられ、今後も地域の設計業務環境の様々な問題について活動報告を継続して参ります。



当地域会ではすでに赤羽会長より事業方針が明確に示されました。特に本年は会員同士による自己満足の活動や作品づくりに留まらず、他地域・団体と境界を超えた交流を活性化し、「地域に創造性を喚起する建築文化をつくる」ためにも、まず積極的に私たちから市民に向けて専門家の役割と責任を明確にすることです。JIAが直面する「設計業務環境の改善」の長い道程はそこから再出発すると確信します。

JIA長野県クラブ 副会長 児野 登

流れていると思ってなりません。加えて建築家という言葉に地域的感覚がなく、地域の人々に馴染みがあるとは言えません。したがって地域会の大きな役割として、JIAの存在意義を浸透させる取り組みを推し進めていかなければなりません。長野県クラブの事業を通じて、また赤羽新会長が言わされた他組織との連携強化により、市民や地域で理解してもらえる存在になることが必要です。



私も微力ながら、新会長ともども会員の一人としてまた執行部の一員として、皆様と一緒に考え、活動して行きたいと思います。

JIA長野県クラブ 副会長 川上 恵一

それ以外では社会に認知されず常識はずれと言われることが多々あります。私も有名建築家の作った美術館を見に行っても展示を見ずに建物だけパチパチ撮って帰ることがあり反省しました。住宅設計でも、まず関わった施主の考え方・工夫・豊かさの違いを理解しなければ仕事は始まりません。その行為を通して始めて自分の為にもなっている事に気づきます。



人生はひとつの舞台と言われます。主役もあれば悪役もあり、それら全ての演技が深く関わって良いドラマが展開します。私達の仕事は決して主役ではなく、偉大なる「脇役」になれたら「理想の光」だと言えるのではないか。そんなことを想った次第です。

JIA長野県クラブ 副会長 山口 康憲

うです。赤羽会長も仰っていますが、当会は県内の他団体及び近県の地域会とも連携しながら会員の資質の向上と地域社会に於ける建築家の職能の確立に向けた活動を危機感を持つて行うべき時だと思います。



西沢前会長の2年間総務委員長を勤めさせていただき一番感じたことは、長野県クラブの人材の豊富さでした。我々には多くの無いものがありますが一番重要な人がいます。何も恐れることはないでしょう。新しく入会した皆さんと一緒に赤羽会長の掲げた旗の下に全員が集まりましょう。

原稿依頼を受けて困ってしまった。総会時、上浪さん・上垣内さんの説明を聞きながらも、UIA大会をどこか遠くの出来事のように考えていたからだ。

仙田前会長が設計入札なんてやっているのは先進国で日本くらいだ、UIA東京大会までにはそうした状態から脱却しないといけないと語っていたのを思い出す。どうもその目標は達成できそうではない。現状、この国の建築家(?)の立場はますます悪くなっている。

イスタンブル大会で2011年の開催地が東京に決定した時に、小倉元会長が「開催するにあたっては、まず建築家の存在・役割を市民に伝えるチャンスと捉え、取り組んでいきます。・・・建築家

だけの大会ではなく、経済界や一般の市民の方々との社会的プロジェクトとして捉えていくべきなのではないでしょうか。」と(一般の市民?つて誰なんだろう)。

NHKの朝のニュースで短く紹介されたopen! architectureで、見学している人たちの新しい発見を楽しんでいる様子が映し出されていた。私たちに出来ることは、こうした活動を身近なところから始め、多くの市民に建築家の社会的な役割を知ってもらうことである。そうした活動の中からこそ、2011年の大会成功への道筋がみえてくるのではないだろうか。



「どうする地域会」に参加して

5月10日、2008年度通常総会後、会員集会「どうする地域会」が開催されました。現状での反省点から将来への展望(どうあるべきか)まで多岐にわたり議論されました。新入会員から前会長方々の意見まで、新入りの私としては、活発な会の現状が把握できた有意義な機会がありました。

そのなかでも印象深かったのは、前会長方々の発言でした。地域に根ざした活動の重要性や、多様化する建築・建設状況での賛助会との関係のあり方から、社会に対する地域会のあり方まで、又、会員作品の類似性の指摘(もっと多様であるべき)から、地域を深く読み解くと、方言と同様、様式として酷似していく地域様式の重要な

小川原設計一級建築士事務所 小川原 吉宏

今まで、骨太でアカデミックな議論は懇談会まで続く勢いでした。

賛助会との関係については、勉強会などの集会からイベント協力まで、他の建築関係団体と比べ、これほど連帯感のある会はないと思います。前会長方々の言葉どうり、個々より全体で、共に発展するという本意に共感いたしました。



赤羽会長による新体制の所信表明と、議論の中で抱負・展望から伝わる静かな熱意は、ますます活発な活動を展開する会になっていく予感がします。

新入会員紹介

建築設計室 ヴェクトル 倉田 政人

この度JIAに入会させていただきました、伊那市建築設計室 ヴェクトルの倉田政人です。以前は 地元の建設会社で設計と現場の管理をしていました。

一昨年9月に予てからの想いであった事務所を立上げ、未熟ながら創造活動に携わり日々奮闘する中、『世に出すもの』『発するもの』に釈然としない気持ちがあり悩んでいたところ、JIAの先輩より本会のご紹介をしていただきました。内容に触れる機会が無く、漠然と憧れだけの想いをもっていました。戸惑いもありましたが、参加させていただくことで私にとって鍛錬になると思い、またなんと言っても先輩方々にまぎり切磋琢磨できることが嬉しく入会させていただきました。

本年度より行事に参加させて頂いておりますが、都度、諸先輩がたの熱意にふれ感化されています。つたなくもじめに丁寧でありたい、日々努力し懸命でいたいと考えています。

今、JIAに参加させていただくなかで、先輩方々から学び研鑽できる機会が出来たことに感謝しております。宜しくお願ひ致します。

創風設計室 長島 三夫

この度入会させていただきました上田市の創風設計室・長島と申します。数年前から入会のお説明はいたしましたが、なんなく敷居が高く感じて躊躇しておりました。しかし、設計監理を業とする以上は、建築士会や建築士事務所協会でも勉強の場はたくさんありますが、より高い刺激を受けるにはJIAがいいと思い入会させていただきました。先日、総会に参加させていただき皆さんの建築に対する想いや問題意識の高さに感銘いたしました。



私は個人で設計活動をしているため、地域や社会に対して働きかけを興そうと思っても非常に小さな力で影響力がありません。クラブの活動にできるだけ多く参加させていただくことによって、大きな力となり社会活動へと繋がっていくことを思い描いております。これから尚いっそ“一生勉強”“日々研鑽”を胸に刻み、自分の意識を高め、JIA長野県クラブが社会に対してより大きな力となるよう努力していく所存です。少しでも早く、刺激を受ける側から、刺激を与える側の人間になりたいと思いますので、今後ともよろしくご指導をお願いいたします。

武田誠彦建築設計事務所 武田 誠彦

この度、JIAおよびJIA長野県クラブ会員に加えさせていただくことになりました武田誠彦建築設計事務所 武田誠彦と申します。JIAの会員になることは、設計事務所の独立とともに若い頃からのもうひとつの夢でありました。

まだ設計事務所として独立後間もないこともあり、若輩にて建築家としても全く足りませんが、建築・設計に対する情熱と志は強く、高く持っています。今後は会員としてJIAの名に恥じぬよう活動することはもちろん、レベルの高く素晴らしい諸先輩方に混じり、少しでも地域に貢献したいと思っています。

JIA入会にあたり初心に立ち戻り、建築家として研鑽に励むとともに、身を律しつつ中庸を旨とし、心身ともに人格の陶冶・涵養に文質彬彬、努めて参りますのでどうぞよろしくお願ひいたします。



ひらい建築設計事務所 平井 敦典

この度、JIAに入会させていただきました飯山市のひらい建築設計事務所・平井敦典です。JIAへの入会は日頃から書籍等で先輩方の活躍を拝見し、建築への真摯な取組みと新たなチャレンジ精神に共感を得たことがきっかけとなりました。



3月に行われた建築祭には入会前であるにも関わらず参加させていただき、先輩方の作品をはじめ学生たちの作品なども興味深く拝見させていただき、大変感銘を受けました。私自身、飯山の片田舎で日頃からぬるま湯に浸かっていたせいか、何か忘れていた物を思い出したといった心境になり、これから新たな気持ちで建築に向かっていこうと決意を固めました。私の主に活動している地域は冬の豪雪で知られているように長野県内でも大変特殊な地域だと思います。建築に対し雪対策は切っても切り離せないという条件下の中で、固定観念にとらわれ最近は自由な発想をすること事態が自分自身の中で欠けていたように感じられます。その意味でもこの会を通じ先輩方をはじめ様々な方とも交流させていただき、地域に根ざした活動に繋げていけばたらと考えています。40歳の節目の入会となりますが、まだまだ若輩者です。どうぞ皆様よろしくお願ひ致します。

賛助会だより

最近おもう事

本年度、赤羽会長を先頭にJIA長野県クラブは船出をしました。私も何人もの会長の下で過ごさせて頂きましたが、流石建築家の皆様方の集まりですね、すばらしい個性の持ち主の方々とのお付き合いをしているうちに二十数年間が、あっという間に過ぎてしまいました。若い時から小心者で人の前に立つのが大の苦手で内気な性格の為、自分の意が伝えられず今日まで生きてまいりました。JIA正会員も若く希望に溢れた、優秀な人達が集まってきたました。我々賛助会も非常に楽しみにしております。JIAはまだまだ世の中に周知されておりません。「I」が抜けて世界の農協の集まりと思っている人たち（素人）が多くいると思われます。正会員、賛助会員が地方からの発信ではないですが、JIAがすばらしい集団だと認知される様、一致団結して頑張らなければ到底目的は達成できません。残念ですが、会員の過半数の人達は諸会議には全く出席せず、顔を

JIA長野県クラブ 賛助会長 坂田 守夫

見たこともない人がおられます。「信州の建築家とつくる家」第5集の作製について検討ではなく、今年11月発刊に向けて着々と進んでいるとの事ですが、60%弱の人の参加作品集ではなく、会員全員の発表の場であってほしいと常々考えていましたし、過去4集までの経緯でも口ずっぱく発言をさせて頂きました。私はどんな事でも全員参加が基本だと確信しています。世の中は不況真っただ中、長野県は特に不況のオンパレードです。こんな時にこそ正会員、賛助会員全員が協力して、進んで諸会合に出席し、知恵を出し合って不況を切り開いていかなければなりません。不況の時がチャンスです、全員一丸となってより良いJIA長野県クラブを築こうではありませんか。賛助会も頑張ります。



会員集会「どうする地域会」を振り返って

「今回、会員集会を賛助会主導でやってみてはどうか」との事で、初めて司会をやらせてもらいました。日頃あまり人前で話をする事が無いのと、司会等というのはやった事が無いので、緊張で胃が締付けられるのを堪えながらでしたが、何とか皆様のお陰を持ちまして無事？？終える事ができました。ありがとうございました。

テーマの「どうする地域会」新体制がスタートする今、改めて地域会というものを考えるにはいいタイミングだったのではないかでしょうか。西沢前会長が目指したもの、赤羽新会長がこれから目指すもの、改めてゆっくり聞かせて頂きましてありがとうございました。新入会員の皆様には、いきなり話を振つてしまい申し訳ありませんでした。でも皆様の気持ちがよく伝わり

JIA長野県クラブ 賛助会員 (株)新和建材 水谷 健治

良かったのではないかと…。賛助会の皆様もいきなり振つてしまいすいませんでした。ほんとうは賛助会がメインで話をしてもらうつもりだったのですが、15分で終わっちゃいました。また次回によろしくお願ひ致します。



最後に、とても感動した事があります。それは出澤相談役の総評の中で「賛助会の皆さんには、物作りをしていくパートナーなんです。共に良い物作りをしていきましょう」その一言で胸が熱くなり、賛助会とは何なのか理解できました。良きパートナーにならなければ、思いを新たに新体制のスタートです。

賛助会新入会員の紹介

この度、JIA長野県クラブ賛助会に入会させて頂きました、藤田瓦商会(株)の藤田英則です。先ず、歴史あるJIA長野県クラブ賛助会に入会させて頂いた事にお礼申し上げます。

私は、長野市松代町で屋根瓦工事業を営んでおります。日本で瓦屋根の歴史は約1400年あると云われております。日本の文化とも言える瓦屋根の専門工事業社として、恥じぬよう古き良きものを受け継ぎ、時代にあった、機能・技術・安全性・経済性・

JIA長野県クラブ 賛助会員 藤田瓦商会(株) 藤田 英則

美を追い求めて、日々努力しております。好きな言葉は、出会い・御縁です。この言葉を大切にしたいと思います。会員の皆様の情熱に刺激を受けつつも、入会してまだ、右も左も分からぬ私がですが、皆様と共に頑張りたいと思っております。よろしくお願ひ致します。



■今後の行事予定

- 2008年7月末頃……………まち並みウォッチング
- 2008年8月2日（土）…………技術交流会、勉強会、納涼会
- 2008年8月23日（土）…………JAグリーン長野住宅セミナー
- 2008年11月末…「愛と情熱の家づくり第5刊」発刊予定

■新事務局紹介

5月から事務局でお世話になっている平岡美智子です。今まで人と接する仕事をしていまして、事務の仕事には不慣れです。その上わからない事ばかりで、皆さんからご指導と励ましをいただきながら「毎日が勉強！」と思い仕事をしています。これからもJIA長野県クラブの運営がスムーズにいくように頑張りますので、ご指導ください。私から、皆さんへお返しできるとしたら「元気」でしょうか、よろしくお願ひします(^。^)

編集後記

今年度から広報に携わせていただくことになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。この会報が初めての大仕事でした。全体構成、原稿の依頼など会報を1回発行するのにも膨大な労力が必要なことを実感しました。不慣れではありますが精一杯務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

広報委員長 勝山敏雄

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。